



『飾磨街道』

衣川 良介

生野銀山から約40kmの生野橋を渡り南へ、保城→西中島→野里→京口町→神屋町と姫路市の東を通り、朝日町に至ります。そこから、現在のJR姫路駅に沿ってまっすぐ西へ、南畝（のうねん）町で左折し飾磨街道に入ります。安田→栗山→亀山→都倉→飾磨→飾磨の津物揚場に到着し『銀の馬車道』全行程（48km）が終了します。終点、飾磨の地名があらわれたのはかなり古く、『播磨国風土記』にも「飾磨郡」の名が見えます。又、飾磨街道沿いの町名は古く、江戸時代にはほとんどが現れています。（播磨慶長絵図）

飾磨街道に入ると、安田から各所に明治時代や大正時代からの民家が残っています。2015年1月に指定された『寶角家住宅』（ほうずみけ じゅうたく、都市景観重要建築物）もその一つです。この住宅は飾磨街道沿いに明治23年に建築された民家で、木綿や麻を扱う問屋でした。亀山にはお城かと思うような、前に堀を周りに頑丈な塀を巡らし、物見櫓を備えたお寺があります。その敷地面積は 6千坪(20,000平米)、甲子園球場のグラウンド 4千坪より50%も広いのです。亀山 本徳寺、元は蓮如の門弟、空善が飾磨郡の英賀城下に本堂を開山したのが始まりです。天正 8年（1580年）の豊臣秀吉の英賀城攻めに先立ち、戦火を避けるために秀吉に寄進された亀山へ移されました。本徳寺については次号以降、詳しく記載したいと考えています。



直線の道をどんどん南へ降って行きます。阪神・阪急電車の相互乗り入れで、大阪ともつながっている山陽電鉄の飾磨駅は北に向かって姫路へ向かう本線と西へ向かう網干線の連結駅でもあり、駅前だけは現在でも人通り多いところです。

私の子どものころ駅前通りは活気のある栄町商店街で、その西に姫路市で最大の小学校、飾磨小学校がありました。本や模型飛行機の部品などは、校区外になる栄町商店街や飾磨小学校の前にあった文房具店まで買に行ったものです。

往時の活気今はなく、シャッターの降りた店舗もあります。その道をどんどん南に進むと国道 250号線（浜国道）が横切ります。国道を越えて少し歩くと『浅田化学工業（株）』の正門があり飾磨街道はここで終わり、正門の右に飾磨の津物揚場のレンガが残されています。この会社は明治34年の創業で、明礬（ミョウバン）鉱を原料として加里明バンと硫酸アルミニウムの製造を始めました。日本で最初のアルミニウム化合物工業化の事業と聞きます。社長のお名前は朝倉 悟様、あれあれ？生野橋のたもとににあった『馬車道修築の碑』にも朝倉姓が書かれていましたね。（鑛山助正六位 朝倉盛明 誌す）同族の方なのでしょうね。ちなみに姫路には朝倉姓はそんなに多くありません。姓名辞典で調べると朝倉姓の一分が兵庫県養父市八鹿町朝倉発祥、とありました。



亀山 本徳寺



『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目が変わりますよ。
ぜひお越しください。

